

故石川依久子先生と国際藻類センター構想について

大野正夫

本誌の真山茂樹先生による故石川依久子先生の真心のこもった追悼文を拝読し、石川先生が一途に人生を歩まれたことがよくわかりました。この追悼文のなかで「国際藻類センター」の設立のことが書かれておりますが、石川先生は、このプロジェクト推進活動は終わっていないと思われていたと思ひ、このことについて記録して置きたいと思ひます。

国際藻類センター設立構想は、1997年、先生が日本藻類学会の会長になられた年に、日本海藻協会（会長 有賀祐勝先生）とマリンバイオ・テクノロジー学会（会長 宮地重遠先生）にも相談されて3団体で討議して構想が練られました。ほとんど、石川先生のアイデアに沿った提案書ができました。先生は藻類（微細藻類と海藻）の一般への普及活動、研究活動と国際性を持った活動の3本を主な柱にしました。そのなかでも一般への藻類の普及を重視し、藻類は動きがないので、自然の海を再現する大型水槽で魚介類を入れた水族館と学習館、海藻製品の展示、研究活動はそれに関連するレベルの高い研究活動で、世界でどこにもない国際性を持ったものということを言われました。

石川先生は、海藻水族館の案を練るために、海藻を多く水槽に入れている鹿児島水族館に、1日滞在して海藻と魚介類が共存する自然の海を水槽内でどのように再現するか考えたそうです。学習館としての海藻の展示法などは、故吉崎 誠先生と討議されたと聞きました。

このプロジェクト実現を主導したのは石川先生ですが、宮地先生もご多忙の時期に、このプロジェクトに奔走して下さいました。候補に挙がったいくつかは、宮地先生から持ち込まれたものではなかったかと思ひます。私は日本海藻協会として参画しました。大阪の候補は、天王山の海遊館に隣接するパースで歩いて行ける広い閉鎖した倉庫でした。場所は海に面しており、倉庫の広さも充分すぎる広さでしたが、改装経費が大阪市だけでは財政難で工面できないということでした。次に上がった候補は、高松の高松駅と隣接した宇高連絡船パースの跡地でした。高松市担当者は、ここに収容地になる施設を作りたいということで、水族館構想には乗り気でした。特に高松市には、モノコや沖縄の水族館の大型水槽をつくった会社があり、会社としてもこの構想に非常に興味を示し、自ら高松市の担当者と話し合いを持たれました。しかし、高松市の上層部の考えは、収益の上がる施設を目指しており、結果的には文化施設より複合商業施設を選択しました。次に候補に挙がったのは、沖縄の国連機関としての国際大学構想の一翼になることでした。宮地先生の御努力で副知事とも面談した

のですが、一般への普及活動を入れたい石川先生の熱意にそぐわず、こちらから提案を撤回したとお聞きしております。日本海藻協会からは故浜田 稔氏が、洲本市のフェリー波止場に、土産物店とレストランの建物が閉店したままであるので、そこを再利用という案が出されました。有賀先生は、そこを日本海藻協会の拠点として良いかもしれないと幹事会で話された記憶があります。三度ほど洲本市担当者と石川先生、浜田さんと私とで話し合いました。提案内容は、洲本市の活性化につながる担当者から期待できる回答がありましたが、やはり市役所内で討議したところ、改装費や運営費に不安があるということで中断しました。これらのプロジェクトの推進活動に費やした期間は8年間あまりでした。

その後、2007年の国際海藻シンポジウムの開催にむけて、石川先生と私は、海苔、寒天、ワカメの日本語版、英語版のDVD制作作業などに追われて、国際藻類センターの設立活動は中断しました。その頃から先生は理化学研究所プロジェクト研究の研究員になられて、自由になる時間がなくなったと思ひます。石川先生の主導で動いたので、この構想は中断したままに年月が経ってしまいました。

石川先生は、卒論研究を東京大学の水産学科の新崎盛敏先生の研究室で行い、その後、引き続き3年あまり、アオノリとヒトエグサの研究をされ、応用藻類学への関心を持ち、藻類を一般の方々に理解してもらおう活動にこだわるようになったと思ひます。

国際藻類センター構想は、日本でしかできない事業であり、石川先生の構想は、藻類研究と藻類の普及活動の拠点作りにつながると思ひます。8年あまりの活動は、決して夢物語でなく、もう一步というところで断念したものばかりでした。石川先生は計画を投げ出す方ではないので、多分、石川先生がお元気であれば、カサノリの仕事を終えられた後に、このプロジェクト推進を再開されたと思ひます。

現在、地域再生が、政府の主要な施策になっており、大学も地域との連携が叫ばれている時ですので、この構想を実現させる時期が来たと思ひます。ただ、国際藻類センター設立構想の実現には、主導する若手の藻類研究者、関係団体と藻類関係の会社との連携、国を動かす活力ある者の出現が期待されます。今後の提案としては、石川先生が最も固守していた藻類の普及の場を核にした藻類センター構想の推進ではないかと思ひます。

(高知大学)